

3. 1 朝鮮独立運動95周年の企画を

取り組んで

東海民衆センター 岩田菊二

2010年に発足した「韓国併合100年」東海行動実行委員会（以下東海行動と記す）は、今年も3回目となる3・1朝鮮独立運動の取り組みを行った。私もその東海行動の企画の一員として関わったことから、その行動の報告をしたい。

今年の3月1日は、1919年に起こった3・1朝鮮独立運動から95周年にあたり、しかも土曜日であった。東海行動がいままで行ってきた3月1日行動（と言っても2回ほどであるが）は、平日であったため夜の集会だけとなっていた。いま日韓、日朝問題は、安倍政権の歴史認識の後退から、首脳会談もできないほど険悪な状況がつけられている。しかも、マスコミなど世論も歴史認識の見直しという動きを強めており、河野談話（1993年に「旧日本軍の従軍慰安婦の強制性」を認め謝罪と反省を行った）の見直しや、歴史教科書の見直しなど、かつて日本が朝鮮半島で行った侵略支配、弾圧や虐殺を無かったかのようにするための歴史の捻じ曲げがはじまっている。日韓、日朝の友好と連帯を広めるために活動してきた東海行動は、こうした憂慮するべき政治状況の中で3・1朝鮮独立運動の記念日を通して、市民レベルで少しでも流れの変化をつくろう

と考え取り組んできた。

1日かけた行動として3・1運動を企画

土曜日という利点を生かして、この企画をもっと広げようと考え、この間日韓、日朝問題を取り組んでいる団体に呼び掛けて「3・1『95周年』企画実行委員会」（以下実行委員会と記す）を立ち上げた。実行委員会では、3・1企画の名称を「見なおそう歴史！つくろう信頼と友好！」とし、運動の主旨を広め行動の財政的な支援をいただくために、賛同個人・団体を募ることとなった。また、実行委員会を積み重ねて、3・1企画として最終的に、午前10時からパネル展、映画会、韓国舞踊、団体アピール、そして講演を1日かけて行うこととなった。内容的には少し欲張った企画で、当初は戸惑いや不安も自分自身の中にあっただ。しかし、3月1日が近づくと、当日準備の段階でいいスタートを切ることができれば、午前10時開催から企画は成功するという確信が強くなった。それは賛同個人、団体が予想に反して、多く集まっていたことで裏打ちされた。

人間蘇生のために「不逞」であれ

パネル展示では、名古屋三菱朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会から、朝鮮の高校生が描いた絵をお借りすることができた。この絵は、主に慰安婦問題をテーマに書かれた絵と思っただが、内容は日本と朝鮮半島の平和と友好を願うものであり、高校生の素直な気持ちが見事に表現されていて感動した。映画は、「パッチギ2」を上映したが、上映前に若い人が「見たかった映画です」と話されているのを聞いて、何となく楽しい気分であった。名古屋で活躍の、ノリパンの皆さんにもご協力をいただいて、韓国舞踊を披露していただいた。講演では、東京新聞（中日新聞東京本社）特別報道部デスクの田原牧さんをお呼びして、1時間半ほどお話ししていただいた。田原さんは名古屋にも通算して7、8年おられたこともあり、なじみある人もおられる方であった。講演は、「日本は極右政権が登場したがゆえに、戦争責任の総括と向きあわなければならなくなっており、ごまかしがきかなくなっている」としたうえで、「凡庸な悪」の中で政治情勢は逆に人間的な視点を誤った方向へ誘導していると指摘。中東問題が専門的な田原さんは、エジプト滞在の経験から「自分を確信して、人間蘇生のために『不逞』であること。自分らしく生きていくこと」が大事なことだとわかりやすく語られた。

3・1独立運動の日は、朝鮮半島では解放運動の国家的な記念行事が行われ休日となっている。加害者としての日本では、その反省も謝罪も歴史から学ぶ教訓も語られないでいる。この差は、一体何なんだろう。今回の運動を取り組んできて、私たちは少なくとも人間としての良心を確認できたと考ええる。参加者80名、賛同では賛同個人56名（目標30名）、団体16団体（目標10団体）と目標を上回って、この運動に協力していただいた。心から感謝を表したい。来年は日韓国交正常化50年であり、引き続き日韓、日朝の友好と連帯、信頼の構築に向けて頑張っていかなければならないと考えている。